

平成 18 年 9 月

## 平成 17 年度伊賀地域高等学校再編活性化推進拡大協議会 協議のまとめ

## 第 1 経緯

## 1. 平成 17 年度協議会設置までの経緯

## (1) 「平成 16 年度協議会」の報告書提出（平成 16 年 12 月）

- ア. 理想の学び 伊賀地域の高等学校を一つの学びの場と捉え、多様な学びの高等学校をバランスよく配置。柔軟に学べる教育システムや将来的には一体となることも検討。
- イ. 農工商 3 校の統合 平成 20 年度を目途に新総合専門高校を設置

## (2) 伊賀地域における高等学校のあり方検討関係者会議（平成 17 年 7 月 1 日）

- ア. 目的：伊賀地域選出県議の呼びかけによる議員と協議会委員予定者の意見交換
- イ. 出席者：伊賀地域選出県議会議員 4 人、協議会委員予定者 28 人 計 32 人
- ウ. 協議事項：伊賀地域における高校のあり方と今後の具体的な進め方について
- エ. 提起された課題等

(ア) 報告書で提言されている「伊賀地域の高等学校の将来のあるべき姿」は、具体性にかげ、そこに到るまでの道筋が示されていない。

(イ) 農工商だけを再編するのではなく、普通科も同時に検討すべきである。

(ウ) 既存の施設を利用した統合では意識は変わらず、理想の統合のためには新しい校舎の建設も検討すべきである。

(エ) 農工商の 3 校統合ありきで県教委主導の議論が進められたのではないか。

(オ) 地域を巻き込んだ議論が不十分であり、問題意識が共有されていない。

⇒ 再編活性化は県教委がトップダウンで進めるのではなく、地域の声を広く聞くとともに、時間をかけて議論すべきである。

## 2. 平成 17 年度協議会における協議経緯

(1) 平成 17 年 7 月 1 日の伊賀地域における高等学校のあり方検討関係者会議で提起された課題等を踏まえ、平成 17 年 8 月 12 日に地域の有識者や PTA 代表、市教育長、小中県立学校長代表、教員代表の計 19 名からなる第 1 回協議会を開催し、座長として四日市大学総合政策学部教授岩崎恭典氏を選出した。そして、今後、上野地区と名張地区の分科会で伊賀全体を視野に入れつつ地域固有の課題についても協議を行い、協議会でその意見をまとめることとした。

(2) 協議会とは別に、中学校と高等学校の意思疎通等を図るため、伊賀地域の全中学校長と高等学校長の意見交換会が 9 月と 11 月に 2 回開催され、高校再編活性化についての意見交換がなされた。

(3) 上野と名張の分科会は、9 月～11 月にかけてそれぞれ 2 回ずつ開催され、「理想の学び」のイメージや、望ましい学校・学科配置について意見交換した後、そこに到るプロセスとして、普通科高校や専門高校の再編、あけぼの学園高校、昼間部併置の定時制のあり方などについて協議を行った。その協議結果を今後開催の協議会に報告し、諸課題についてさらに検討を加えることとした。

- (4) 第2回協議会は平成18年3月14日に開催され、両分科会から協議概要の報告があった後、具体的な協議を行った。特に、最も志願者数の減少が大きい上野農業高校の再編について、農工商の統合だけでなく、上野高校の分校案、農業科案や普通科・総合学科を併設する案についても協議がなされた。あけぼの学園高校については、半数の生徒が名張地域から通学をしている状況もあり、また、同じ総合学科ということから、名張高校との統合も視野に入れて検討した。
- (5) 第3回協議会は平成18年4月11日に開催され、賛否が分かれて一致しない点もあったが、あくまでも現在検討中の再編案として、次の内容で広く保護者等に意見を聴くこととし、次回、その具体的な方法等を検討することになった。
- ①上野農業高校は商工と統合し、新総合専門高校としてスケールメリットを生かせる形に再編する。
  - ②あけぼの学園高校は名張高校との統合も視野に入れて検討していく。
  - ③上野地域に新普通科高校を設置して普通科志向に対応し、当面、3校体制とする。
  - ④名張地域の3校は当面維持するとともに、普通科の実績を上げるための学科改編や学校の魅力化を検討する。
- (6) 第4回協議会は平成18年5月11日に開催され、「広く意見を聴く会」で説明する協議会での検討案について協議を行った。特に新普通科高校設置の可否や、平成23年度を目途とした学校数について活性化の観点から議論がなされた。また、名張地域から他地域への流出を防ぐための手立てとして、学科改編や特色化についても協議したほか、「広く意見を聴く会」の開催にあたっての資料や周知方法等の具体的な検討を行った。
- (7) 平成18年6月26日、27日、30日の3回にわたり、伊賀地域の児童・生徒の保護者等を対象として「広く意見を聴く会」を開催し、高校を取り巻く状況の理解を深めてもらうとともに、協議会で検討している再編案について広く意見を聴取した。
- 参加者は延べ242人であったが、新普通科高校の設置に対する疑問や危惧する意見、新総合専門高校に期待する意見、あけぼの学園高校の存続を求める意見、名張地域の高校の特色化を求める意見など、アンケートも含めて多くの意見が出された。
- (8) 第5回協議会は平成18年9月5日に開催され、「広く意見を聴く会」の結果を踏まえて「平成17年度協議会のまとめ」について検討を行い、今回をもって平成17年度協議会としての協議を終了することとした。

## 第2 主な論点

### 1. 理想の学びについて

平成16年度協議会の報告書において提言されている理想の学びにおける「一つの学校」という考え方について、協議会・分科会の双方で検討を行った結果、その求めるべき理念は共有されたが、学校運営などにおいて課題が多く、時間をかけながら具体化に向けての努力が必要であるという意見が大勢を占めた。

したがって、将来の理想の姿についての理念の周知とともに、生徒、保護者、地域住民の意向も踏まえながら、今後も検討を続けていくことが必要であろう。

### 2. 普通科高校の再編について

旧阿山郡などから長時間をかけて名張の普通科高校へ通学する課題を解消するとともに、中学生や保護者の普通科志向や上野商業高校普通科を発展させたものとして上野地域に新

普通科高校をつくることが複数の委員から提案されたものの、そのコンセプトと学習内容をどうするかという課題が残されている。

一方、委員の中には新普通科高校の新設を危惧する意見もある。その主な理由としては、子どもの減少からみて、近い将来に無くなる学校となることが予想されること、したがって生徒が集まらない可能性や、学校関係者も力が入りにくいこと、設置のコンセプトが不明確であることなどである。

また、子どもたちは上野と名張の両地域で行き来しており、その動きが変わらない限り、生徒が集まらない可能性があることや、上野高校との新たな格差が発生したり、伊賀地域全体の高校が小規模化して活力が失われる可能性なども指摘されている。

こうした新普通科高校を危惧する同様の意見は、「広く意見を聴く会」においても多く出された。

なお、将来の子どもの数や学級数の予測において、伊賀地域から他地域への流出の状況は社会経済状況等により変動する要素を持っており、また、伊賀市における外国人生徒の増加といったことも勘案すれば、新普通科高校が無くなるとは限らないとの考え方もある。

### 3. 専門高校の再編について

農業、工業、商業3校の統合については、平成16年度協議会の報告書で提言され、それを受ける形で県の高校再編活性化第二次実施計画にも反映されているが、各専門高校では定員割れによる活力低下や学級数減による学校運営の困難さが次第に増してきており、学校現場からは早急に再編して活性化を望む意見が出されている。「広く意見を聴く会」においても再編を進めることに賛同する意見が多かった。

農工商を統合することでスケールメリットを生かして学校の活性化を図り、子どもたちの多様なニーズに対応した教育を提供する新総合専門高校をつくることことができる。そしてそれは伊賀の特色ある産業の発展とその人材育成にも寄与することが期待できる。

そのため、新総合専門高校の学級規模と学科編成、特色ある教育課程の編成、施設設備の整備、農業実習地の管理と生徒の移動などが課題とされており、早急に具体的な検討を行う必要がある。

また、教育内容や教育システムを検討する際、伊賀地域独自の特色のある学校づくりや、積極的な外部講師の招聘についても検討を加えるべきである。

### 4. あけぼの学園高校の再編について

あけぼの学園高校は、名張地域から生徒の半数が通学している状況にあり、また、学年2学級規模の小規模な学校で定員を満たせないときもあることから、同じ総合学科の名張高校との統合を視野に入れて検討することが考えられる。

しかし、同じ総合学科というだけで、両校の系列やコンセプトを統合できるかどうか、あけぼの学園高校が果たしている役割をどのように引き継いでいくのか、今ある施設・設備をどうするかなどの課題が残されている。

一方、「広く意見を聴く会」では、集団生活に馴染めない不登校気味の生徒も含め、多様な生徒たちにきめ細やかな指導ができる学校であり、もう少し存続してほしいといった意見が出されている。

### 5. 名張地域の高校再編について

名張地域の3校については、伊賀地域、特に名張地域からの流出を食い止め、学校の特

色化をはかるため、普通科高校に特進コースの設置や中高一貫教育といった意見が出されている。

「広く意見を聴く会」においても、保護者からは名張 3 校の特色が分かりにくく、より一層の魅力化を図るため、特進クラスの設置という意見が複数出された。

一方、伊賀地域外の高校へ流出する原因には様々な要素があり、特進対応だけがその手立てではないという意見もある。

今後は県立高等学校再編活性化実施計画（第一次、第二次）を踏まえ、名張西高校の英語科、情報科のあり方についても検討を加える必要がある。また、今後の生徒数の減少を見据えつつ、名張地域の普通科高校の統合も視野に入れて活性化策を検討していかなければならない。

## 6. 昼間定時制について

平成 16 年度協議会の報告書で提言されている上野高校と名張高校にある夜間定時制を統合して新たに昼間部定時制を持った高校を設置することについて、伊賀地域には昼間部定時制及び通信制を併せ持つ教育特区で認定された学校もあり、それを越えるだけのニーズは現段階では見られないことなどから、特に設置を求める意見は出されなかった。

## 第 3 平成 17 年度協議会の考え方（結論）

平成 17 年度協議会は、これまで 1 年あまりの間に、協議会を 5 回、上野・名張に分かれて分科会を 2 回ずつ、地域の保護者等から直接意見を聞く「広く意見を聴く会」を 3 回開催してきた。

協議では、「理想の学び」の姿を見据えつつ、中学校卒業（予定）者数の減少がひとまず横ばいになる平成 23 年度を目途として再編のあり方を検討してきたところである。

協議の主な論点は、「第 2 主な論点」に掲げたとおりであるが、小学校就学前の子どもが中学校を卒業する平成 27 年度以降はさらに減少が進むことが考えられ、現在 0 歳の子どもが中学校を卒業する平成 33 年頃には、伊賀地域の必要学級数は 28 学級程度になると予想される。したがって、約 10 年～15 年後には、施設設備の耐用年数などの課題も踏まえつつ、伊賀地域の高校を 4 校程度に再編し、学校の活性化を図ることが必要になってくると考えられる。

そうした見通しのもと、協議会での議論を重ね合わせると、「図表 1」のようにイメージすることができ、4 校に至る過程の平成 23 年度頃は（A）（B）の両案が考えられる。

当協議会としては、これまでの精力的な協議や「広く意見を聴く会」での意見・要望を踏まえ、あえて一つに集約することはせず、両論を併記して提案するものである。

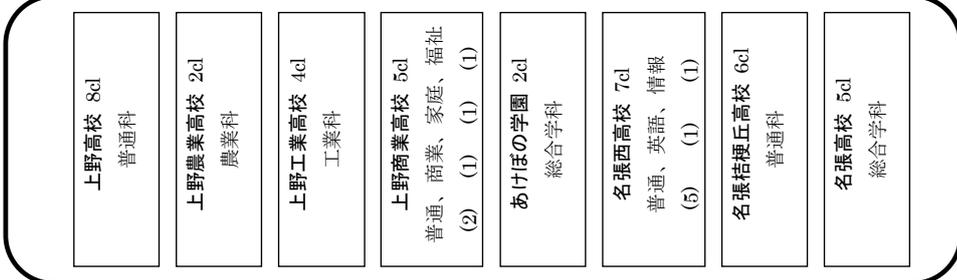
なお、普通科高校の再編及びあけぼの学園高校の再編については、それぞれ賛否が分かれ意見の一致をみないところであるが、専門高校の再編については、協議会や「広く意見を聴く会」の議論においても、分校となる前のできる限り早い時期に農工商を統合して新総合専門高校の設置を進める意見で概ね一致しているところである。当協議会としては、子どもたちに魅力のある生き生きとした新総合専門高校になるよう、平成 21 年度開校を目途として農工商 3 校の再編を推進することを県教育委員会に求めるものである。

県教育委員会及び各県立学校においては、協議会でのこれまでの議論と提案を十分考慮し、さらに地域から信頼される魅力ある高等学校をめざして、特別支援教育のあり方も含めた伊賀地域高等学校の再編活性化を推進されるよう期待する一方、当協議会は今後とも理想の学びの実現に向けて検討を重ねていくものとする。

# 伊賀地域高等学校 再編活性化イメージ

**現在 8校**

平成 18年度 39学級



**H21~H23 6校**

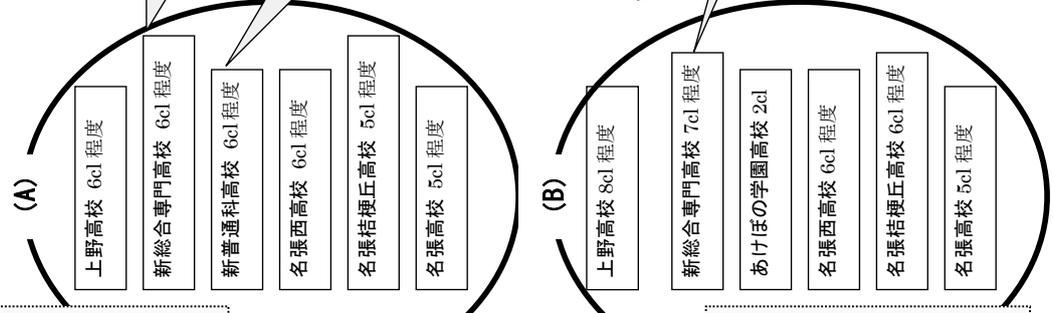
平成 21年度 36学級程度  
平成 23年度 34学級程度

**【(A) の考え方】**

- 普通科志向への対応(新普通科高校の設置)
- 専門教育の多様化に対応  
(新総合専門高校の設置)

**【課題】**

- 1校あたりの学級数が少なくなり、学校の活性化が図れない。
- 新普通科高校のコンセプトとその存続



**★新普通科高校の設置**  
**★農工商三校の統合と新総合専門高校の設置**  
**★総合学科高校の再編**

**★農工商三校の統合と新総合専門高校の設置**

**【(B) の考え方】**

- 切磋琢磨できる学習環境
- 多様な生徒に対するきめ細かい対応  
(あけぼの学園高校の存置)
- 専門教育の多様化に対応  
(新総合専門高校の設置)

**【課題】**

- 新総合専門高校の教室の増設
- 学級数の多い新総合専門高校の学校運営

**H24~H26**

平成 24年度 33学級程度  
平成 26年度 33学級程度



**★普通科高校の再編**

**★普通科高校の再編**

**★総合学科高校の再編**

**H27~H33 4校**

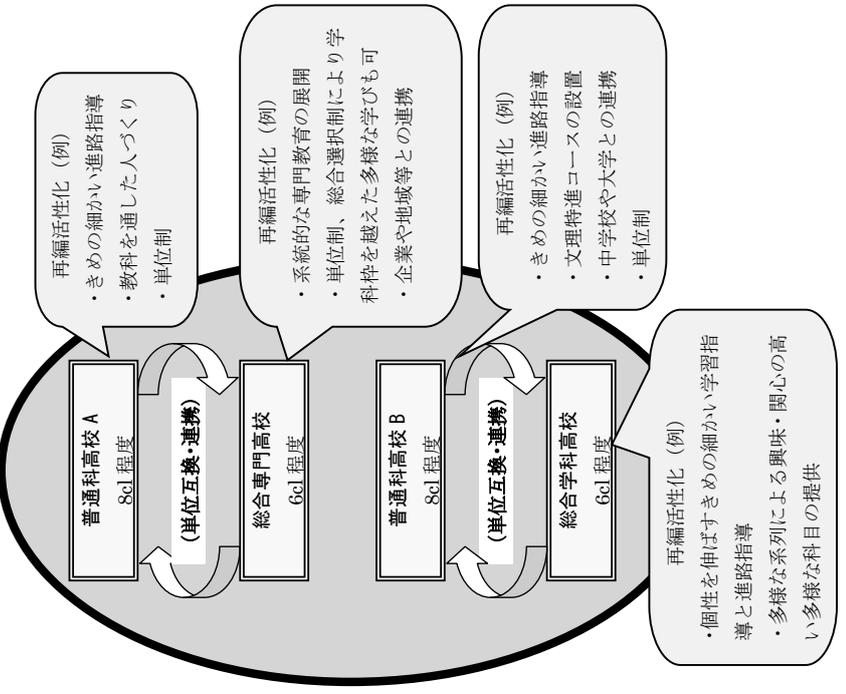
平成 27年度 30学級程度  
平成 33年度 28学級程度

**【4校の考え方】**

- 子どもたちの一人ひとりを尊重した教育
- 切磋琢磨できる学習環境
- 単位互換、連携による一体的な学びと学校間格差の解消

**【課題】**

- 単位互換、連携における子どもたちの移動
- 特別支援教育のあり方



## 中学校卒業生推移予測と必要学級数

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33
中学校卒業生(予測)数	1,854	1,907	1,791	1,710	1,718	1,610	1,582	1,598	1,601	1,454	1,568	1,492	1,504	1,463	1,439	1,339
必要学級数(程度)	39	39	37	36	36	34	33	33	33	30	32	31	31	30	30	28

### 1. 伊賀市と名張市 (人)

伊賀市	943	1,034	944	908	923	893	887	904	869	802	883	806	824	807	797	773
名張市	911	873	847	802	795	717	695	694	732	652	685	686	680	656	642	566

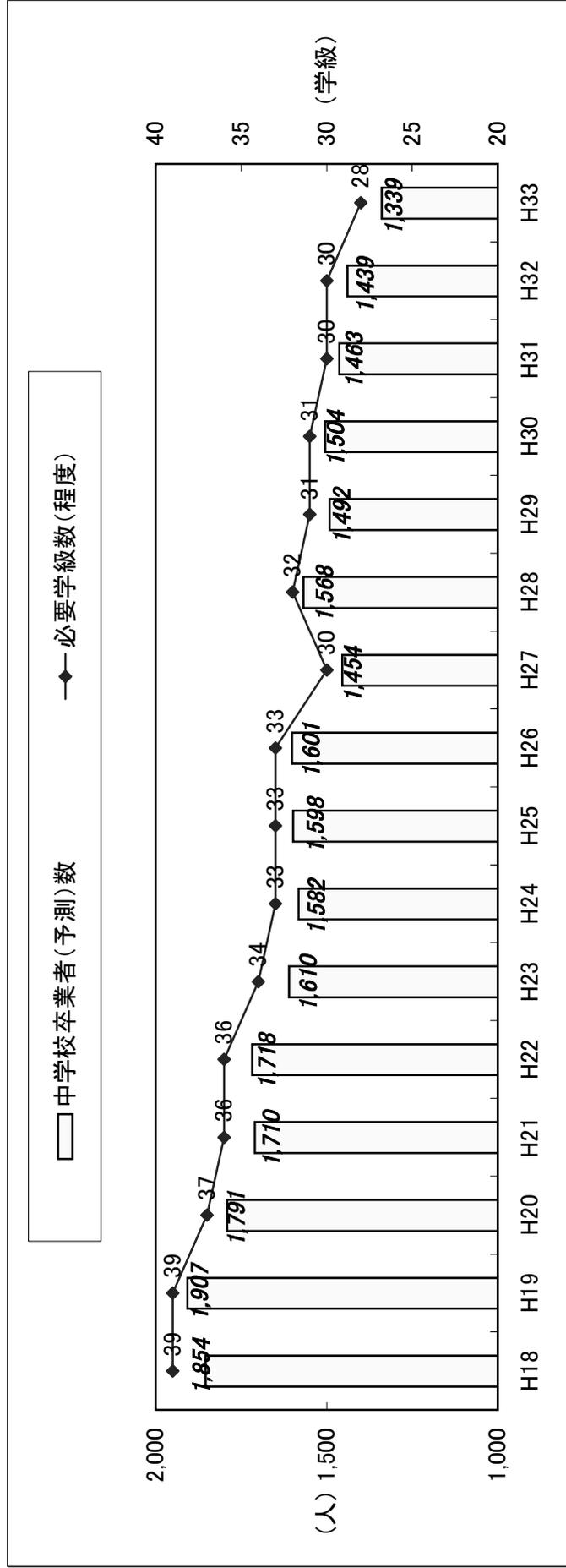
### 2. 伊賀北部と伊賀南部 (人)

伊賀北部	783	891	796	787	828	793	798	830	780	727	799	734	763	750	743	729
伊賀南部	1,071	1,016	995	923	890	817	784	768	821	727	769	758	741	713	696	610

(注1)伊賀北部は旧上野市・旧阿山郡、伊賀南部は名張市・旧名賀郡

(注2)H18～H27の中学校卒業生(予測)数は、平成18年5月1日現在の学校基本調査をもとに予測した数値

(注3)H28～H33の中学校卒業生(予測)数は、平成18年4月30日現在の住民基本台帳人口(5歳～0歳)をもとに予測した数値



平成17年8月現在

## 伊賀地域高等学校再編活性化推進拡大協議会 委員名簿

1	大学有識者 (1人)	四日市大学総合政策学部 教授	岩崎 恭典
2	地元有識者 (4人)	(社) 伊賀上野観光協会 会長	廣澤 浩一
3		大山田むらびとづくり推進会議理事長 (元阿山郡PTA連絡協議会長)	広島 義秀
4		会社員 (前名張市PTA連合会長)	斉藤 健
5		主婦 (前名張市立すずらん台小学校長)	竹原 サヨ子
6	PTA関係者 (3人)	伊賀市PTA連合会 会長	中井 洸一
7		名張市PTA連合会 副会長	楓 せつ
8		伊賀地区県立学校PTA協議会 会長	百地 三喜生
9	市教委 (2人)	伊賀市教育委員会 教育長	味岡 一典
10		名張市教育委員会 教育長	上島 和久
11	小中学校長代表 (3人)	伊賀市校長会 会長 伊賀市立花之木小学校 校長	西森 平之
12		伊賀市校長会 副会長 伊賀市立崇広中学校 校長	松崎 敏之
13		名張市小中校長 代表 名張市立南中学校 校長	瀧永 善樹
14	県立学校長 代表 (4人)	伊賀地区校長会 会長 上野高等学校 校長	上村 桂一
15		上野工業高等学校 校長	加藤 隆夫
16		名張西高等学校 校長	辻井 賢隆
17		伊賀つばさ学園 校長	常住 良和
18	教員代表 (2人)	伊賀市立阿山中学校 教諭	中川 裕晴
19		上野工業高等学校 教諭	中川 賢治

(事務局) 教育改革室、高校教育室、上野教育事務所

平成 22・23 年度伊賀地域高等学校再編活性化推進協議会（協議のまとめ）

平成 24 年 3 月

1 これまでの経緯

伊賀地域では中学校卒業生数の減少に対応するため、平成 16 年度から協議会を設置し、平成 33 年頃までの県立高等学校のあり方について検討を進めてきました。平成 18 年度までの協議では、公聴会を通して広く意見を聞きながら、伊賀市内の専門高校 3 校を統合して、新総合専門高校を設置することをまとめるとともに、少子化が進む平成 27～33 年頃には伊賀地域の高校は 4 校程度となることもイメージ化しました。

平成 22 年度に、平成 18 年 3 月にまとめられた「協議のまとめ」（別添参照）とその後の県教育行政における当地域のこれまでの再編活性化について検証するとともに、中学校卒業生が大きく減少する平成 27 年度以降の高等学校のあり方について検討するため、協議を開始しました。

2 現状と課題

伊賀地域の中学校卒業生数は平成 23 年 3 月には 1,673 人でしたが、平成 27 年 3 月には 1,443 人程度となり、約 230 人減少する見込みです。地域全体の学級数も、平成 23 年度は 33 学級でしたが、平成 27 年度には 27～28 学級となることが予想され、このままでは 4 学級以下の小規模となる学校もできるため、学校としての活力の低下が懸念されます。

また、平成 23 年 4 月に近畿大学工業高等専門学校が熊野市から名張市に移転し、平成 23 年度入学者選抜では伊賀地域から前年比 40 人増の 48 人が入学するなど、新たな状況も生まれています。

3 これまでの再編活性化の検証

本協議会では、平成 21 年度に設置した伊賀白鳳高校の生徒対象アンケートの集計結果や、伊賀市・名張市両市の小中学校長会や P T A 連合会等への聞き取り調査の結果を資料として協議を行いました。主な内容は次のとおりです。

- (1) 伊賀白鳳高校については、7 学級規模の学校になり、活性化がはかられた。アンケートでは、7 割の生徒が伊賀白鳳高校に入学して満足していることがわかったが、所属する学科・コースを入学後にすべての学科・コースの学習内容を体験したうえで決定するシステムについてはさまざまな意見があり、引き続き検証していく必要がある。
- (2) 平成 18 年 3 月の「協議のまとめ」と平成 20 年 3 月の「三重県立高等学校再編活性化第三次実施計画」では、あけぼの学園高校は 2 学級を設置のコンセプトとしており、多様な生徒にきめ細かな指導をして成果をあげていることから、当面は存

続を求める声が多い。

- (3) 平成20・21年度に名張分科会を開催して、名張地域3校の活性化方針がまとめられたが、生徒や保護者に、これまで以上の特色化・魅力化が伝わっていない。
- (4) 「再編活性化基本計画」で適正規模としている1学年3～8学級は県全体の基準であり、伊賀地域においては学校運営の観点から、6学級を大きく上回ったり下回ったりしない規模が適当と考えられる。3～4学級では活性化は難しい。

#### 4 伊賀地域の高等学校の今後のあり方

平成18年度の「協議のまとめ」には、平成27年度以降で伊賀地域の高等学校が4校程度になるイメージが記されており、この「4校案」をベースに、伊賀地域高等学校の今後のあり方について協議を行いました。主な内容は次のとおりです。

- (1) 1学年の学級数が4学級以下になると、教職員の人数が減り、設置できる選択科目の数が減るなど教育課程への影響があるほか、部活動や学校行事が沈滞し、学校の活力が失われる。このことを資料をもとに検証した。
- (2) 名張市内の普通科2校については、これまで違いが出せるように特色化の議論を進めてきたが、普通科であるという共通点に加え、進路状況もよく似ており、特色や独自性が出せているとはいえない。これら2校は、3～4学級規模だと同じようなレベルになり、中学生の進路選択幅の拡大には結びつかない。
- (3) 名張地域から津方面への進学が多く見られることから、名張の子どもたちが名張の高校で学ぶことのできる学校づくりが必要である。このことから、名張市の普通科2校については、それぞれの特色を併せ持つ7学級程度の規模の1校に統合して、進学に特化したクラスをつくるなど、名張市の子どもたちの幅広い進学ニーズに対応できる、活力ある高校を作った方がよい。
- (4) 伊賀市内には、名張市の高校に通学するために保護者の送迎が必要な地域があり、統合する学校については、交通の便がよく、通学しやすい場所に位置づけるべきである。
- (5) 平成28年度に生徒数が一時的に増加することを考えると、統合には慎重であるべきである。また、普通科として1校に統合したとしても、もう1校を地域の学習ニーズにあったちがった形の高校とすることも考えられる。

これらのことから、統合についてはやむを得ないが、統合後の学校像を明確にするための時間が必要であるなどの意見はありましたが、

学習内容や進路状況等に共通点が多い名張桔梗丘高校と名張西高校については、平成27年度を目途に7学級程度の1校に統合し、それぞれの特色を併せ持つ、生徒・保護者にとって魅力ある、活力ある学校づくりを行う
---

ことで協議がまとめられました。

## 平成 2 4 年度伊賀地域高等学校活性化推進協議会 協議のまとめ

平成 2 5 年 3 月

伊賀地域高等学校活性化推進協議会

## 1 これまでの経緯

## (1) 昨年度までの協議

伊賀地域では、中学校卒業者数の減少に対応するため、平成 1 6 年度から協議会を設置し、県立高等学校のあり方について検討を進めてきました。平成 1 8 年 9 月にそれまでの協議を総括し、伊賀市内の専門高校 3 校を統合して新総合専門高校を設置することをとりまとめるとともに、少子化が進む平成 2 7 ~ 3 3 年頃には伊賀地域の高校は 4 校程度となることをイメージ化しました。

その後も少子化が進行することから、平成 2 2 年度に協議会を再開し、当地域におけるそれまでの高等学校活性化について検証するとともに、中学校卒業者数が大きく減少する平成 2 7 年度以降の高等学校のあり方について検討を行いました。協議会では、中学校卒業者数が減少する中で現在の学校数を維持すれば、平成 2 7 年度には学校が小規模化し、活性化が難しいということ、データをもとに検証しました。このことから、平成 2 4 年 3 月に、「学習内容や進路状況等に共通点が多い名張桔梗丘高校と名張西高校については、平成 2 7 年度を目途に 7 学級程度の 1 校に統合し、それぞれの特色を併せ持つ、生徒・保護者にとって魅力ある、活力ある学校づくりを行う」ことをまとめました。

## (2) 伊賀地域高等学校活性化説明会（平成 2 4 年 5 月）

上記を踏まえ、平成 2 4 年 5 月に、県教育委員会主催の「伊賀地域高等学校活性化説明会」が開催され、協議会が平成 2 4 年 3 月にまとめた内容について、保護者、学校関係者や市民等への説明が行われました（3 回開催：5 月 1 5 日・1 9 日—名張市、2 2 日—伊賀市）。また、このほかにも両市の P T A 連合会等からの要請に応じて、説明の場が持たれました。

説明会では、市民等から、概ね次のような意見が出されました。

- ・ 平成 2 7 年度の統合は急すぎる。新しい学校のイメージの策定は、広く意見を聴きながら、丁寧に行うべきである。
- ・ 新しい学校のイメージを早く発表すべきである。それがないまま、統合が発表されたことは、理解できない。
- ・ 新しい高校が設置されない側の学校に進学した場合、後輩が入学せず、学校行事や部活動で大きなデメリットがある。このことへの対応が必要である。
- ・ 伊賀地域から他地域に生徒が流出しなくてもいいような高校、他地域から生徒が流入してくるような高校を作るべきである。

## 2 伊賀地域の高等学校をとりまく現状

伊賀地域の中学校卒業生数は平成24年3月には1,643人でしたが、平成27年3月には1,467人程度となり、約180人減少する見込みです（資料1）。地域全体の学級数も、平成24年度は32学級でしたが、平成27年度には28学級程度となることが予想されます。これまでも議論されてきたことですが、このままの学校数を維持すると、平成27年度には4学級以下の小規模となる学校もできるため、学校としての活力の低下が懸念されます。

また、平成23年4月に近畿大学工業高等専門学校が熊野市から名張市に移転し、平成23年度及び平成24年度入学者選抜では、いずれも伊賀地域からは、移転前よりも約40人多い48人が入学するという状況も生まれています。

## 3 本年度の協議等の経過

本年度の協議会は、平成24年3月にまとめた内容や5月の活性化説明会での意見を受けて、7月から開催しました。本年度から協議会を公開とし、より地域や保護者からの意見を聴くという趣旨から、地域の有識者と保護者の委員を増員しました。（巻末「委員名簿」参照）

また、11月に県教育委員会が市民等を対象とした説明会を開催し、それまでに協議した内容について説明しました。

### (1) 第1回協議会（7月10日）

会長に高田短期大学の杉浦礼子准教授を、副会長に上野高校の土肥稔治校長を選出し、今後協議を進めるにあたっての基本的な考え方の共通認識を図りました。その主な内容は次のとおりです。

- ① 本協議会が平成24年3月にまとめたことをベースとして、名張桔梗丘高等学校と名張西高等学校の統合による活性化を進めていく。
- ② 説明会等で出された意見を踏まえ、統合後の新しい学校像、統合の時期、設置場所については引き続き地域等からの意見を聴きながら検討して、平成24年度末を目途に明らかにする。ただし、平成27年度に統合を行うかどうかについては、現中学校3年生の進路選択が円滑かつ適切に行えるように、学校像や設置場所の検討状況を踏まえて、平成24年8月末までに示す。

### (2) 第2回協議会（8月22日）

伊賀地域全体の高等学校のあり方を踏まえ、新しい学校の学校像について、事務局からの「素案」をもとに検討を行いました。委員からは「医療系への進学など、斬新な『目玉』となる特色が必要」、「幅広いニーズに1校で対応することは難しいので、もう1校設置が必要」などの意見が出されました。

次に、新しい学校の学校像の検討状況を踏まえ、2校の統合を平成27年度に行うかどうかについての意見交換を行い、次のように賛否両論の意見が出されました。

- ・ 新校のビジョンが出されたので、生徒の学習環境を整えるためにも平成27年度に統合すべきである。
- ・ 新校の設置場所が示されないままで、平成27年度統合は納得できない。

(3) 第3回協議会（8月28日）

2校の統合を平成27年度に行うかどうかについて、5月の説明会での意見や第2回協議会での意見を参考に、県教育委員会が決定した内容が報告されました。

- ① 現中学校3年生が安心して進路選択できることを重視して、名張桔梗丘高等学校と名張西高等学校の統合については、平成27年度は行わない。
- ② 中学校卒業生数の減少に伴い学校が小規模になると、学校の活力が失われるため、できる限り早く統合することが必要と考えられる。

(4) 第4回協議会（9月21日）

新しい学校の学校像について協議を行い、主に次のような意見がありました。

- ・ 中学生の進路がしっかり保障される学校であるために、進学に特化したクラス1クラスは必要である。
- ・ 進学に特化したクラスについては、特色を持たせるより、レベルを上げることを保護者は望むのではないか。
- ・ 中高一貫教育や校舎制の実施、残された学校の利用も合わせて検討すべきである。

また、統合の時期についての協議も行い、主に次の2つの意見が出されました。

- ・ 学校が小規模になると活性化するのが難しいことから、できるだけ早い段階での統合が必要である。
- ・ 中学校卒業生数は平成28年度に一度増加するので、平成33年度ぐらいがよいのではないか。

(5) 第5回協議会（10月17日）

最初に、新しい学校の学校像の素案について協議を行い、市民等を対象とした説明会で説明していくものとして、委員全員が概ね了解をしました。また、前回意見が出された中高一貫教育については、他県の状況等をもとに意見交換を行い、新高校設置後の次のステップとして引き続き検討していくこととしました。

続いて、統合の時期について協議を行い、「学校が小規模になると多様な選択科目の開設や部活動の設置が困難になり、活性化が図れないことから、できるだけ早い平成28年度とすべき」という意見が多数を占めました。一方で、「時間をかけて議論すべき」という意見も少数ありましたが、協議会としては「平成28年度の統合」で意見をまとめました。

最後に、統合後の学校の設置場所について意見交換を行い、「交通の便利な学校に設置すべき」、「新しい学校の学校像が実現しやすい場所に設置すべき」という、大きく分けて2つの意見が出されました。

(6) 第6回協議会（11月1日）

新しい学校像の素案や、統合の時期を平成28年度とまとめたこと等について、保護者や学校関係者、地域住民等に説明を行う説明会を開催することとし、開催要項や説明内容等の検討を行いました。

(7) 伊賀地域高等学校活性化説明会（11月20日－名張市、24日－伊賀市）

これまでの協議会における協議を踏まえ、県教育委員会主催により保護者や市民等

を対象に、説明会が開催されました。冒頭に協議会会長から概要を報告し、事務局である県教育委員会から、これまでの経緯や本年度の協議会における協議、新しい学校の学校像の素案、協議会において統合の年度を平成28年度とまとめたこと等について具体的な説明が行われました。

市民等からは、統合の年度を平成28年度とすることについて少数の反対意見はありましたが、できるだけ早い平成28年度に統合するべきという意見や、平成28年度の統合を前提とした新しい学校の学校像への意見が大半を占めました。

新しい学校の学校像の素案についても、否定的な意見はほとんどなく、期待する意見や、教育委員会に対する人材面や施設面での要望的な意見が多くありました。

また、新しい学校が設置されない方の学校に在学する生徒の進路保障や学校生活の充実にしっかりと対応してほしいという意見や、少しでも地域に活力を与える跡地の利用を望むなどの意見もありました。

#### (8) 第7回協議会（1月17日）

これまでの議論を踏まえて作成した新しい学校の全体像（概要・基本理念・めざす学校像・育てたい生徒像・学科の構成・特色ある教育内容）の案について協議を行いました。英語運用能力の育成や多様な生徒の幅広いニーズに応える旨をしっかりと記述をするべきなどの意見が出されましたが、概ね了承されました。

続いて、新しい学校の設置場所についての意見交換を行い、引き続き「新しい学校像を実現できる教育環境が整えられる場所」「通学時間や通学に係る交通費の負担が少ない場所」の2つの観点からの意見が出されました。

#### (9) 第8回協議会（2月26日）

本年度の「協議のまとめ」に係る協議を行いました。

## 4 伊賀地域の県立高等学校のあり方

### (1) 進学希望を実現する学校づくり

名張地域の中学校卒業生(平成23年度卒)の進路状況をみると、津市内の普通科高校への進学者が60人を超えており、県外の私立高校への進学者も40人近くになっています。名張地域の生徒が名張地域の高校で学ぶことができるようにするためには、国公立大学等への進学ニーズに対応し、進学希望をより多く実現できる学校づくりを行うことが必要です。

### (2) 伊賀地域における学科別の募集定員の割合

平成24年度の伊賀地域の県立高等学校入学定員における普通科の割合は53.1%です。これには理数科や英語科などの「普通科系専門学科」も含まれています。

県立高等学校の普通科の生徒の卒業後の進路は多様であり、大学等への進学を中心とした普通科もあれば、専門学校への進学や就職者の多い普通科もあります。伊賀地域の普通科の高等学校は3校とも大学及び短期大学への進学者が卒業生の60%を超えていることから「大学進学を中心とした普通科」ということができます。一方、「専門学校への進学や就職者の多い普通科」は、他地域にはありますが、伊賀地域にはな

いこととなります。

総合学科の高等学校は、当地域には、あけぼの学園高等学校(2学級)と名張高等学校(5学級)の2校があり、他の地域よりも総合学科の割合が高くなっています。総合学科に改編される前は、あけぼの学園高等学校は普通科の高等学校(伊賀高等学校)、名張高等学校は普通科に加え、商業と家庭に関する学科のある高等学校であり、これらの普通科は、進路状況から「専門学校への進学や就職者の多い普通科」であったと見ることができます。

伊賀地域では、数字上は普通科の割合が低く、総合学科の割合が高くなっています。これは、「専門学校への進学や就職者の多い普通科」部分を、総合学科に改編して、現在の名張高等学校のように大学進学から就職まで幅広く対応できる系列を設けたり、あけぼの学園高等学校のように専門学校進学や就職に対応できるように実習科目の多い系列を設けたりすることによって、学習環境の充実をはかってきた結果と考えることができます。

今後も地域全体の学科の適正な配置について、検討していく必要があります。

### (3) 障がいのある生徒等さまざまな支援を必要とする生徒が県立高等学校で学ぶことができる環境づくり

障がいのある生徒等さまざまな支援を必要とする生徒も含め、地域の生徒たちが地域で学べる学校づくりが必要との意見があります。高等学校に特別支援学級を設置することは法令上は可能となっていますが、高等学校の学習指導要領が適用されることとなっており、弾力的な教育課程の編成ができないなど、条件整備が十分整っているとはいえない状況です。

今後、このことについてどのような対応を取り得るか、引き続き調査、検討していく必要があります。

また、外国人生徒については、現在、名張高等学校、名張桔梗丘高等学校、名張西高等学校で特別枠入学者選抜を実施し、高等学校で学ぶ機会の拡充を図っています。入学者選抜は県全体にかかる制度ですが、今後も当地域の外国人生徒が高等学校で学ぶ環境をどのように整えていくかについて、検討していく必要があります。

### (4) 各高等学校のあり方

当地域において、大学等高等教育機関への進学ニーズに対応する学校、職業に関する専門的な知識と技術を習得できる学校、多様な選択科目から進路希望や適性に応じて学びたい科目を主体的に選択して学べる学校を適正に配置し、多様な学習ニーズに対応して学力や社会への参画力を育成することを通じて、県立高等学校の活性化を図っていくことが求められます。

今後も、地域全体の高等学校の適正な配置の観点から、地域での協議を進めていくことが必要です。

## 5 名張地域新高等学校の設置

名張地域では、地元の高等学校に進学せず、大学への進学等を目的として、上野地域、津地域や県外の高等学校へ進学する生徒が多く見られるため、こうした進学ニーズに対応できる高等学校が名張市内に必要との意見があります。このことから、名張桔梗丘高等学校と名張西高等学校が統合してできる高等学校は、国公立大学等への進学希望を多く実現できる学校であることが必要な要素の一つとなります。

一方で、現在の名張桔梗丘高等学校と名張西高等学校の卒業者の進路は、四年制の私立大学への進学が多いですが、専門学校への進学や就職をする生徒も一定数いることから、新しい高等学校は幅広い学習ニーズの生徒が学ぶ学校となることが考えられます。

本協議会として、今年度の協議、市民等を対象とした説明会における意見等を踏まえ、名張桔梗丘高等学校と名張西高等学校が統合してできる新しい高等学校について、次のように提案します（資料2、3参照）。

### （1）設置の基本理念

名張桔梗丘高校と名張西高校を統合して、普通科をベースとし、1学年8学級程度の新しい高校を設置します。両校のよさを継承するとともに、スケールメリットを活かして、これまでの両校の取組を発展させた教育活動を展開することにより、広い視野とコミュニケーションスキルを身につけ、地域社会や世界で活躍できる人材を育成します。

### （2）設置の時期

今後それぞれの学校が小規模となり、活力が失われていくことが危惧されることから、できるだけ早い平成28年度とすることが望ましいと考えます。

### （3）設置の場所

市民等を対象として開催した説明会や協議会では、「新しい学校の学校像を実現しやすい場所」、「伊賀市・名張市の両市から通学しやすい場所」などの意見が出されており、県教育委員会は、これらの意見を参考にして、諸条件を総合的に勘案しながら、決定する必要があります。

### （4）めざす学校像

- ① 地域に根ざし、地域の期待に応え、地域から信頼される学校
- ② 生徒一人ひとりが自らの目標を設定し、切磋琢磨しながら努力する力を育む学校
- ③ 生徒の学習の成果を引き出すとともに、自立した学習者を育てる学校
- ④ 規範意識や社会性を育む学校
- ⑤ 学校行事や部活動が活発な学校

### （5）育てたい生徒像

- ① 豊かな人間性と人権感覚を持つ生徒
- ② 相互に理解し合えるコミュニケーション力を持ち、社会に参画できる生徒

- ③ 自らの将来に目的をもち、進路実現を図ることができる生徒
- ④ グローバルな視点で意思決定・意思疎通を行い、情報を利活用できる力を持つ生徒

## (6) 学科の構成

### ① 普通科 7学級程度

多様な選択科目や習熟度別学習を通じて学習の成果を引き出し、四年制大学や短期大学、専門学校への進学等、幅広い進路希望に対応します。

### ② 進学に特化した学科または普通科のコース（名称は未定） 1学級程度

国公立大学（文系・理系）等への進路希望を実現できる学力の育成を通じて、将来、司法・行政・教育などから科学・医療に至る幅広い分野で専門職として活躍する資質を育成します。

## (7) 特色ある教育内容

### ① 単位制

多様な選択科目を設置し、生徒が自らの学習計画に基づき、進路希望や興味・関心に応じた科目を選択して学習します。

### ② 英語運用能力の育成

さまざまな国や地域の人々と英語で意見交換ができ、社会で問題になっている事柄について自分の意見を持ち、伝える力を育成します。（オールイングリッシュタイムの導入や英語ディベート、海外語学研修等の実施）

### ③ キャリア教育の充実

生徒がさまざまな職業や働くことの意味・意義について学び、自分の将来についてしっかりと考え、自らの「未来を拓く力」を持つために、キャリア教育の充実を図ります。

### ④ 情報利活用能力の育成

授業をはじめ教育活動の中でICTを利活用することを通して、情報利活用能力、情報機器を利用したプレゼンテーション能力、及び情報倫理を育みます。

### ⑤ 社会に参画し、貢献する力の育成

地域と連携した教育活動等を通じて、適切なコミュニケーションにより、人とつながりながら、社会に貢献し、よりよい社会を構築する力を育みます。そのためにコーチング等の手法を活用します。

## 6 おわりに

本協議会では、これからも伊賀地域全体の高等学校のあり方について、引き続き協議を進めます。また、これまでの協議において、地域全体の学科の適正な配置、特別な支援を必要とする子どもたちの県立高校への受け入れと支援、当地域における中高一貫教育の実施、新しい学校が設置されない方の学校に在学する生徒の学校生活の充実などが今後検討すべき課題や要望として出されており、これらについても中長期的な視野に立って、検討をすすめていきます。

## 平成25・26年度の協議のまとめ

平成27年3月

伊賀地域高等学校活性化推進協議会

### 1 平成24年度までの経緯

伊賀地域では、中学校卒業生数の減少に対応するため、平成16年度から協議会を設置し、県立高校のあり方について検討を進めてきました。平成18年9月にそれまでの協議を総括し、伊賀市内の専門高校3校を統合して新総合専門高校（伊賀白鳳高校）を設置することをとりまとめるとともに、少子化が進む平成27～33年度頃には伊賀地域の県立高校は4校程度となることをイメージ化しました。

その後も少子化が進行することから、平成22年度に協議会を再開し、当地域の県立高校のあり方について検討を行いました。検討にあたっては、地域の中学校卒業生の進路状況や学習ニーズ等を踏まえるとともに、保護者や市民を対象とした説明会を開催して検討状況を報告し、そこで出された意見も参考としました。

平成24年度までの検討の結果、平成28年4月に名張桔梗丘高校と名張西高校を統合して普通科をベースとした新しい高校を設置し、両校の良さを継承・発展させるとともに、広い視野とコミュニケーションスキルを身につけ、地域や世界で活躍できる人材を育成すること等を、協議のまとめ（平成25年3月）としました。

### 2 平成25・26年度の協議の概要

これまでの協議を踏まえ、「地域全体の学科の適正な配置」「特別な支援を必要とする子どもたちの県立高校への受け入れと支援」「伊賀地域における中高一貫教育の実施」について、協議しました。

なお、平成28年4月に名張市に開校する新しい高校については、教職員等で構成するワーキング会議における検討状況の報告を受けることとしました。

#### (1) 地域全体の学科の適正な配置について

今後の中学校卒業生数の推移予測や中学生の進路状況など、当地域の県立高校をとりまく状況を踏まえて協議を行いました。主な意見は次のとおりです。

- 平成31～33年度頃には地域全体の1学年の学級数が28学級程度となり、平成25年度に比べて4学級程度減少することが共通認識されたと考える。地域の小中学生や保護者等への周知に必要な期間を考慮しながら、協議する必要がある。
- 平成18年9月の「協議のまとめ」には、平成27～33年度頃に伊賀地域の県立高校が4校になるというイメージが示されているが、本当に4校になっているのかをよく考えて、議論する必要がある。
- 地域としては普通科への志向が強いという意見があるが、地域のニーズを分析したうえで、普通科や総合学科等を今後どうしていけばよいか考えなければならない。

## (2) 特別な支援を必要とする子どもたちの県立高等学校への受け入れと支援について

当地域において、特別な支援を必要とする子どもたちを含め、すべての子どもたちが当地域で学べる学校づくりが必要との意見があることから、特別支援教育の現状や課題を踏まえて協議を行いました。主な意見は次のとおりです。

- 特別な支援を必要とする子どもは増加傾向にあり、地元の県立高校に受け入れる枠組みをつくってもらいたい。
- 保護者の中には子どもに高校卒業資格を取らせたいという声があり、子どもたちが私立通信制高校や県外にも進学している実態を踏まえると、当地域の県立高校にその受け入れ体制をつくる必要があるのではないか。
- 少子化の一方で、特別な支援を必要とする子どもたちの増加に伴い、小中学校の「特別支援学級」の数も増加している。そこで学ぶ子どもたちのほとんどが高校への進学を希望しており、その希望を実現するために、国の動向も注視しつつ、県でも制度のあり方を考えていく必要がある。
- どの高校においても特別支援教育に関する校内委員会を設置するとともに、特別支援教育コーディネータを中心に体制の整備を図り、中学校との情報交換を充分に行いながら、入学してきた生徒に対する最大限の支援をしていると考えている。
- 義務教育である小中学校には特別支援学級に関する人的配置の法的措置があるが、高校にはない。加えて、高校では、入学者選抜、履修及び単位認定、通学手段、施設や設備、卒業後の出口保障等に課題がある。
- 県立高校の入学者選抜に特別な選抜枠を設けた場合は、その分、他の志願者の定員枠が少なくなることや、他の志願者との間の公平性の確保に課題がある。また、「地域全体の学科の適正な配置」の議論にも影響してくる。
- 高校に入学者選抜の特別枠を設けるよりも、多様な教科・科目の選択ができるように教育課程を柔軟にすることにより、事実上、高校入学の門戸が広がるという方向性がふさわしいのではないかと。
- 中学校は、特に「自閉症」「情緒障がい」の子どもたちが県立高校に多く受け入れて欲しいと考えているのではないかと。次年度の協議を具体的に進めるために、地域全体の県立高校のあり方の中で、3部制の定時制高校を設置することも検討してはどうか。また、その場合は、上野高校定時制と名張高校定時制のあり方を議論する必要がある。

## (3) 伊賀地域における中高一貫教育の実施について

当地域の県立高校のあり方を考える中で、中高一貫教育の利点を活かして魅力ある学習環境を整備できるのではないかとという意見があったことから、当地域における中高一貫教育の実施について、そのメリット・デメリットや全国の事例等を踏まえて協議を行いました。

当地域の人口規模や交通事情等も含めて総合的に検討したところ、中高一貫教育には、6年間を通じて「ゆとり」をもって学ぶことができる等の大きな利点があるという意見がある一方で、今後、少子化が進む中で、当地域の小中学校に与える影

響の大きさが心配される等の課題があるという意見が多く出されたことから、伊賀地域に新たに中高一貫教育校を設置することは難しいと結論づけました。

(4) 名張新高等学校（名張青峰高等学校）に係るワーキング会議の検討状況について  
検討状況の報告を受けての主な意見は、次のとおりです。

- 進学に特化したコースを1学級程度設置して、国公立大学等の文系と理系への進学に対応するということだが、少人数となっても文系と理系別の講座を開設すること等を含めて、しっかりと対応してもらいたい。
- 名張桔梗丘高校は、平成28年度は2・3年生のみ、平成29年度は3年生のみになるが、専門教科を指導する教員配置や部活動・学校行事の合同実施等を含めて、在校生の高校生活の充実に努めてもらいたい。
- 当地域の子どもたちが他地域へ多く進学しているという課題に対して、新しく開校する名張青峰高校が地域の子どもの進路希望に応えられる高校になるよう、地域とともに学校づくりを進めていくことが重要である。

### 3 おわりに

本地域協議会では、これからも伊賀地域全体の県立高校のあり方について、引き続き協議を進めます。

協議にあたっては、多様な進路希望をもった地域の子どもたちが地域の学校で学べるような環境づくりに留意することが必要です。また、中学校卒業生数が平成31年以降に再び大きく減少することや、中学生の進路動向、学習ニーズ等を踏まえるとともに、小中学生及び保護者の進路選択への影響を勘案して、具体的な方向性が出せるよう検討を進める必要があります。

なお、「特別な支援を必要とする子どもたちの県立高等学校への受け入れと支援」についても、地域全体の県立高校のあり方の中で、引き続き検討する必要があります。

#### <参考>協議会の開催日

##### 平成25年度

- 第1回 平成25年 9月 3日 (火)
- 第2回 平成25年11月13日 (水)
- 第3回 平成26年 1月27日 (月)

##### 平成26年度

- 第1回 平成26年 8月25日 (月)
- 第2回 平成26年10月29日 (水)
- 第3回 平成26年12月16日 (火)
- 第4回 平成27年 2月25日 (水)